

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどうか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (評論) 採点基準 (合計1150点)

問一 5点

ハ

問二 各3点

ロ 11ハ 11イ

問三 10点

【模範解答例】

芸術家は実世間の足場をうまくわたることができずに、

(A 4点)

現実からの逃げ場所を求めて、

(B 2点)

芸術に関心を持つようになったにすぎないから。

(C 4点)

◎各加点要素の加点の条件

【A～Cに関して部分採点を行う】

A 芸術家は実世間の足場をうまくわたることができない (11世わたりの達人になれない)

B 芸術家は現実からの逃げ場所を求める (11隠れ家とひとりで反省する時間がなければ生きてゆきにくい)

C 芸術に関心を持つようになった

問四 4点

ロ

問五 5点

ホ

問六 15点

【模範解答例】芸術家はリアルの深さにふれ、 (A 3点)

リアルと常識との間のずれや矛盾に

自分なりの表現を与えようとするが、 (B 4点)

芸術家にはリアルの深さ、大きさを測る特権などなく (C 3点)

リアル自体は表現を絶して去っていくものとしてある。 (D 5点)

◎各加点要素の加点の条件

【A～Dに関して部分採点を行う】

A 芸術家はリアルの深さにふれる

B リアルと常識との間のずれや矛盾に自分なりの表現を与えようとする

* 「小説などの作品として痕跡を残す」という点まで言及していてもよい

C 芸術家にはリアルの深さ、大きさを測る特権などない* 「絶望に似た運命観」「人間の方法のむなしさ」などの表現の場合は2点

D リアル自体は表現を絶して去っていくものとしてある(＝リアルを取り押さえることも、示すこともできない)

問七 5点

二

【二】(評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 粉 2 余暇 3 多寡 4 威信

問二 5点

ハ

問三 8点

【模範解答例】直線的で均質的なもので、 (A 4点)

効率性のために便宜的につくり出しながら、 (B 2点)
自分たちを拘束してしまう枠組み。 (48字) (C 2点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・Cに関して部分採点

A 「直線的で均質的なもので」 (4点)

※現代人の基本的な「時間」のとらえ方についての説明。

B 「効率性のために便宜的につくり出しながら」 (2点)

※効率性を求めるものであることの説明。

C 「自分たちを拘束してしまう枠組み」 (2点)

※傍線部「規定する」についての説明。

問四 8点

【模範解答例】自分たちで実際に見たり、体験したりすることのみ関心を持ち、 (A 4点)

価値を普遍化するための概念に置換しない (B 2点)

という直接体験を原則とすること。 (65字) (C 2点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・Cに関して部分採点

A 「自分たちで実際に見たり、体験したりすることのみ関心を持ち」 (4点)

※ピダハンの実際の行動についての説明。

B 「価値を普遍化するための概念に置換しない」 (2点)

C 「直接体験を原則とすること」 (2点)

※端的に示した部分の指摘。

イ

問六 16点

【模範解答例】

ピダハンは文化的に未開であり、 (A①2点)

ものを持たないが故に、 (A②2点)

豊かさを享受しているのに対し、 (B4点)

現代人は文化を進歩させて (C①2点)

物質的に豊かな中に生きているはずなのに、 (C②2点)

実は豊かさを失っているということ。 (90字) (D4点)

◎各加点点要素の加点点の条件

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「ピダハンは文化的に未開であり、ものを持たないが故に、」 (4点)

※ピダハンのあり方についての説明。

① 「文化的に未開」であるという点の指摘に2点。

② (①であるから) 「ものを持たない」という指摘に2点。

B 「豊かさを享受している」 (4点)

※波線部の「現代人の貧しさ」の指摘に対し、ここは「ピダハンの豊かさ」の指摘。

C 「現代人は文化を進歩させて 物質的に豊かな中に生きている」 (4点)

※ピダハンに対しての現代人のあり方についての説明。

D 「実は豊かさを失っている」 (4点)

※逆説を意識して「現代人が実は貧しい」ことの説明。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 3 点

ハ・ヘ・チ

(順不同・すべて正解して3点。3つ以上書いてあるものは零点とする)

問二 4 点・4 点・6 点

問二・A 4 点

【模範解答例】きつと (a 1 点)

今頃は (b 1 点)

鷹のひなも (c 1 点)

いい具合に成長 (d 1 点)

していることだろう。(a・b)

◎各加点要素の加点の条件

【各部の採点】

a 「きつと：だろう、」：1 点。強意推量の解釈。

b 「今頃は：ているだろう」：1 点。現在推量の解釈。

c 「鷹のひな」：1 点。対象語の補足。「鷹」だけでも可。

d 「良い具合に成長」：1 点。(飼育・捕獲するのに) 良い程度に成長しているという解釈。「良い具合だろう」のみでは×。

問二・B 4 点

【模範解答例】谷底に落ちた主人が (a 2 点)

どうなったかを (b 1 点)

見てみよう。(c 1 点)

【各部の採点】

a 「谷底に落ちた主人が」：2 点。対象の補足。「主人が」だけでは1点。具体的な言葉の補足。

b 「どうなったか」：1 点。どのようなようになったかの解釈。

c 「見てみよう」：1 点。見る＋意志がそろって1点。「確認しよう」も可。

問二・C 6 点

【模範解答例】観音様お助けくださいと願ったのに、 (a 2 点)

大蛇が向かってくるのは (b 3 点)

どうしたとか。(c 1 点)

◎各加点要素の加点の条件

a 「観音様お助けくださいと願ったのに、」：2 点。「観音様お助けください」＋逆接。完答。「思ったが」でも可。

b 「大蛇が向かってくるのは」：3 点。指示語の補足。「蛇が食べようとする」はマイナス1点。

c 「どうしたことか」：1 点。「どうしたのか・どうということか」の意味。

問三 各2点×2

〔I〕口

〔II〕ホ

問四 各2点×4

1 ホ

2 口

3 ハ

4 イ

問五 7点

【模範解答例】

従者から谷に落ちた様子を聞いて、 (a 2点)
主人はきつと生きていないだろう、 (b 2点)
探し出すのは無理だろうと思った (c 2点)
から。 (50字) (d 1点)

◎各加点要素の加点の条件

- a 「従者から谷に落ちた様子を聞いて」：2点。「従者の（谷に落ちた主人の）話を聞き」の内容。
- a b のどちらかに「谷に落ちた」が欲しい。
- b 「（谷に落ちた）主人はきつと生きていないだろう」：2点。主人の死は確実の内容。
- c 「探し出すのは無理だろう」：2点。主人の搜索は不可能の内容。
- d 「から」：1点。「ので・から・ため」などの文末処理。これだけでは零点。

問六 5点

弘誓深如海

問七 7点

【模範解答例】

谷底に落ちて窮地に陥った男が、 (a 1点)
普段から信仰する観音経の一節を唱えたことで、 (b 2点)
大蛇に化身した観音経に命を救われたという (c 3点)
こと。 (60字) (d 1点)

◎各加点要素の加点の条件

↓この設問は男の身にどのようなことが起こったかという問いであり、筆者が何を読者に伝えたいかという設問ではないことに注意。ただ、教訓的な内容でまとめてあっても減点とはしない。

- a 「谷底に落ちて窮地に陥った男が」：1点。谷底におちて絶体絶命の男という内容。
- b 「普段から信仰する観音経の一節を唱えたこと」：2点。信仰する観音経の一節を唱えたという内容。観音経を唱えただけでは1点。
- c 「大蛇に化身した観音経に命を救われた」とい：3点。大蛇に変化した観音に命を救われるの内容。「観音に命を救われた」だけでは1点。
- d 「こと」：1点。文末処理。ここだけの正解では零点。

問八 2点・完答

口・二

【四】(漢文) 採点基準(合計1150点)

問一 各2点×4=8点

a 11ただ b 11かつ c 11たまたま d 11ついに

◎採点のポイント

・歴史的仮名遣いは1点。

問二 5点

【模範解答例】 偵者をして (A 3点)

木に縁りて (B 2点)

視しむ (C)

◎採点のポイント

*A-C 「偵者をして」視しむ」の使役形がないものは不可。0点。

A 「偵者」は、「偵ふる者」「偵る者」も可。

B 「木に縁り」も可。Bのみの加点は無い。

問三 3点

合図(信号・連絡)

◎採点のポイント

・「合図」の「図」などの誤字は減点1。

問四 各3点×2=6点

問四・C

【模範解答例】 壺山の麓の道を (A 1点)

荷物を担いで通る (B 1点)

商人。 (C 1点)

◎採点のポイント

a 「麓」や「道」などが欠けていても同様の内容なら可。「路」も可。「山道」のみは0点。

b 「荷物」は「商品」「袋」なども可。「担って」は「持って」も可。

c 「人」のみは0点。

問四・E

- 【模範解答例】高価な品物を (A 1点)
持っているような (B 1点)
商人。 (C 1点)

◎採点のポイント

- A 「重い物」「たくさん物」は不可。
B 「持っている」は不可。

問五 (一) 4点 (二) 6点

問五 (一)

- 【模範解答例】商人が (A 1点)
虎に (B 1点)
殺された (C 2点)
こと。

【別解】虎が (B 1点)

- 商人を (A 1点)
殺した (C 2点)
こと。

◎採点のポイント

- A 「人」「人間」も可。
B 「人食い虎」も可。

問五 (二)

- 【模範解答例】強盗は、 (A 1点)
死体に虎が引き裂いたような傷をつけ、 (B 2点)
良い物だけを奪い、 (C 1点)
荷物には手をつけていないように元の通りに戻しておいた (D 2点)
から。

◎採点のポイント

- A 「追剥ぎ」「盗賊」「泥棒」など同様のものを可とする。
B 「死体に」はなくとも可。
C 「高価な物」も可。

問六 4点

人

問七 8点

【模範解答例】

虎が人間だと気づき追跡したところ、
隠れ家の洞穴で (A 2点)

(B 2点)

犯人たちが奪い隠していた財宝を見つけ、 (C 2点)

犯人たちは逃げ去ってしまった (D 2点)
から。

◎採点のポイント

A 「人間だと気づき」の要素がないもの…0点。

B 「洞穴」「洞窟」「洞くつ」も可。「隠れ家」の要素がないもの減点1。

C 「犯人」「強盗」「追剥ぎ」など可。「民」は減点1。「奪い」はなくとも可。

D 「おいていった」も可。

問八 6点

【模範解答例】

ああ (A 1点)

世間で虎のような人間は (B 2点)

どうしてこの男だけであろうか、いやほかにもたくさんいる。 (C 3点)

◎採点のポイント

A 感動詞の「ああ」に1点。

B 「世の中に」も可。「世で」は減点1。「世の中」だけでは加点をしない。「人虎」のままは不可。

C 「男」は「この犯人」も可。「民」は減点1。「どうして」の位置は、Bの前も可。

反語であることがわかるように書かれていれば「いや」以下はなくとも可。「この男だけでなく大勢いる」も可。

* 反語表現でないもの、疑問にもとれる場合は不可。

* 反語であって明らかに内容のことなるものは不可。